持て出てゐる城に井戸一つあり是は水不足なり
故に敵に悪しき思ひをなさんとの為に
知らで有りしを海水を汲む者を一人も
知らで討捕りし典膳之丞又夜ぬの
時に水汲を出し敵よりよき兵を二百人差出し山
形勢は詳を知らざりしに城より出て水汲を五十
人取籠めて生捕になりたるに攻寄せ二百人の兵共
になつて切合を始て討て落りけるが山形勢一百人逃
迯たりしに我方へ逃帰る其近辺に陣取てありける山
形勢の内茅部備前守子郎田兵庫山よりを立て出
騎駕籠で敵こゝへ切て落し出花を敷 御手いくも
郎等を引連れ陸に敵に多勢なり前後より責掛
ば海辺に下茅部勢終に討負て敵兵庫の頭を
さしげ勝鬨を挙げ城中へ引退きける義之は也を御
後にて見うるまゝに城こゝを用意の中まで已と成
城をべきものを用意なる故兵庫討負て帰
しけれども今より此後敵勝に乗ぬとも決して落ぐべ
柵より外に一人も出べからざると下知の如く